

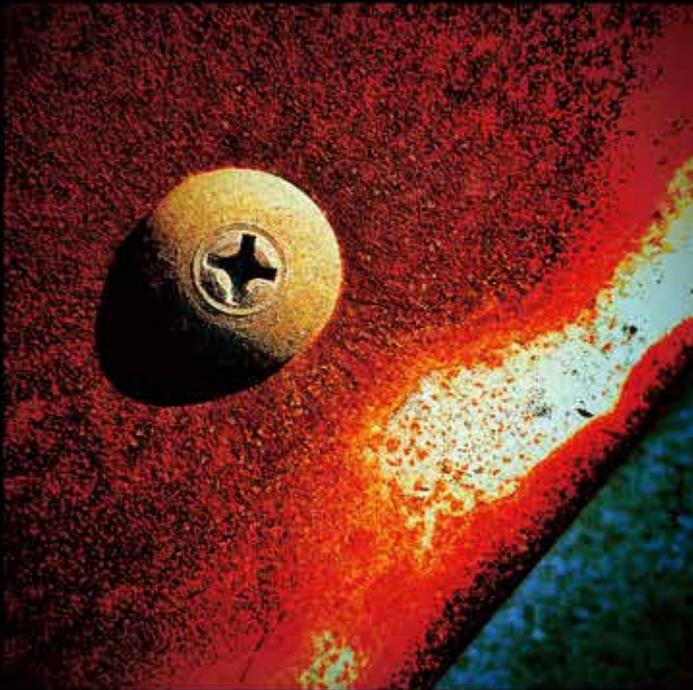
建築人

2025
8

Osaka Association of Architects & Building Engineers
Newsletter "Kenchiku-Jin" No.734

シリーズ 大阪・関西万博をめぐる





「MOAIの独言」

日々心に引っかかった光景やモノをスマホで撮影、加工した作品
私が惹かれるのは
蓄積された時間が感じられるモノや光景
自然の造形物
今その時しかない光
固定概念にとらわれず自由に感じてください

Photographer MOAI

岩手県盛岡市出身
1985年大阪芸術大学卒
同年広告企画制作会社にカメラマンとして入社
あらゆる業種業態のクライアントの撮影に携わる
1996年フリーランスとなりPhoto Office MOAI設立
大阪を拠点に広告写真を中心に活動中

写真展「MOAIの独言」2025 開催中

2025 7/2(水)～8/31(日)

於 Ryo's coffee

<http://www.ryos-coffee.com/>

大阪市平野区背戸口2丁目9-26 御菓子司たちばなや1F

営業時間 7:30～18:00 定休日 毎週火曜日

入場料 お1人様1オーダー

アクセス 大阪メトロ谷町線平野駅7番出口徒歩約10分

駐車場 12台分

建築人

2025.08 No.734

Osaka Association of Architects & Building Engineers
Newsletter "Kenchiku-Jin"

表紙の建築 「ATEREA GARDEN 光垂興産本社」2022年

第68回 大阪建築コンクール 渡辺節賞 受賞作品

設計：日建設計

施工：日本建設

撮影：Buddy'P 長屋 明

発注者自らが長年まちづくりに取り組み、地域住民と共に緑豊かな環境を築き上げた門真市古川橋地区における本社の建替え計画。『緑』を最大限に活かし、まちづくりの拠点として地域住民との共創のアトリエ (atelier) となり、地域の夢を実現する (realize) 場を計画した。

2 MOAIの独言

4 Gallery 建築作品紹介

「M-BASE IN GOSHIKIHAMA / 森本設備淡路事務所」

設計：Atelier KISHISHITA

施工：植野工務店

「愛猫と暮らすセミコートハウス」

設計：大西憲司設計工房

施工：笹原建設

「観櫻居」

設計：宮本康平建築設計事務所+若林広幸

施工：人見建設

7 シリーズ 大阪・関西万博をめぐる

10 動静レポート

11 Topics

12 Information

14 記憶の建築

「酒田市営国体記念体育館」1991年

スポーツ讃える透明感ある空間の光明 / 松隈 洋

建築人 No.734 2025年8月号

監修 公益社団法人大阪府建築士会 建築情報委員会

編集 建築情報委員会『建築人』編集部

部門長：松下典央

委員長：武藤優哉

編集人：河野 学 荻窪伸彦 笠松哲司

川北武志 小谷美樹 昇 勇

中北 力 橋本頼幸 春岡須磨子

三谷勝章 村上栄司 山本恭史

事務局：辻本和人 母倉政美

ロゴ・フォーマットデザイン 芝野健太

印刷 中和印刷紙器株式会社

令和7年8月1日発行

発行人：会長 / 岡本森廣

発行所：公益社団法人大阪府建築士会

〒540-0012 大阪市中央区谷町3-1-17 高田屋大手前ビル5F

tel. 06-6947-1961



淡路島の南西部、古くから夕日の名所として知られる五色浜。そのすぐ山側にある1970年代に開発された別荘地の2区画分が敷地である。給排水衛生設備及び空調設備工事を請負う企業のサテライトオフィス兼、社員（家族も含め）みんなで使う週末住宅である。ここ数年の社会状況の変化に伴う「働く場所の多様化」のひとつの現れでもあるが、新たな拠点を設けることで、営業エリアの拡大と家族的な集団における福利厚生の充実が本計画の目標である。簡素な空間構成と質素な素材、施工者が丹精込めて組み上げた鎔束と登り梁の屋根架構が、みんなで過ごす時間と空間をおおらかに、そして、優しく包み込む重要な要素となっている。（岸下真理+岸下和代）

所在地：兵庫県洲本市
 用途：事務所併用週末住宅
 竣工：2022.12
 構造規模：木造1階
 敷地面積：530.00㎡
 建築面積：109.31㎡
 延床面積：92.75㎡
 構造設計：TAPS建築構造計画事務所
 写真：絹巻 豊



敷地は幹線道路から細い道を抜けた集落の入口にある。前面にアプローチ・駐車場・開放感のあるポケットパーク的な前庭を設け、豊富な植栽が通学路や散歩道として使う近隣住民の目と心を潤し、一角に設置したベンチからは交流が生まれることを願い、新たな町並みとなるように計画した。アプローチを進み、玄関・ホールを抜けると中庭と一体となったDKへと続き、逆くの字型とした平面形状が視線の広がりや空間の連続性を持たせ、中庭を挟んで対面にある離れのようなリビングや寝室・和室へと繋がる。高天井のDKから各室に向かって高さを絞ることで個室のスケールへと誘導する。5つの庭を持ち、どこからも自然と光の豊かさに触れ、庭を挟んで家族がお互いの気配を感じながら暮らせる住まいとした。

所在地：大阪府門真市
用途：専用住宅
竣工：2025.06
構造規模：木造平屋建
敷地面積：373.61㎡
建築面積：124.41㎡
延床面積：116.47㎡
写真：福澤昭嘉



本計画は琵琶湖畔に建つ木造平屋建ての住まいである。琵琶湖の景色を最大限取り込むこと、敷地環境を生かすことを念頭に設計を行った。湖岸に通じる既設の石段と玄関を軸として繋ぎ、扉を開けると湖面まで視線が通る空間とした。建物の外観は表側(旧街道側)と裏側(琵琶湖側)で建築の開き方が大きく異なり、二面性を持つファサードとなっている。表側は左官壁を中心に開口部を制御しながら落ち着いた佇まいとなるようにデザインし、裏側は開口部を大きく取ることで景色により開かれるようにした。日々異なる表情を見せてくれる景色を前に、時間を忘れてゆったりと過ごせる空間となっていれば幸いである。

所在地：滋賀県高島市
用途：専用住宅
竣工：2025.04
構造設計：ARGO
構造規模：木造
地上1階
敷地面積：436.92㎡
建築面積：135.80㎡
延床面積：125.29㎡
写真：松村芳治

Pavilion of the Republic of France at Expo 2025 Osaka 「Theatre of Life」

一意匠としての物語

フランス館という建築体の根源は、動の美にその姿を託し、深き情念に導かれて築かれた、ひとつの詩的構想の結晶である。

まず、風に靡き光をきらめかせる紗幕に包まれた場所が、その身を開き、来訪者を迎え入れる壮麗な舞台と化す。

その劇的空間において、愛と宿命とを結ぶ「赤い糸」が姿を得た螺旋の階段と出逢い、観る者はその曲線を辿り、舞台装置のごとく荘厳に佇む優美な造形へと導かれてゆく。

やがてその糸は館内を貫く一筋の道として張り巡らされ、建築・音楽・光・自然が三幕の構成の中で厳かに交差し、ひとつの生命ある叙事詩として脈動する。



異文化をつなぐ設計

本プロジェクトにおいて私たちが直面した核心は、「デザイナーの構想」や「フランス協会からの要望」を、日本の法規や建築基準の枠組みの中でいかに現実の建築として実現するか、という課題であった。

言うまでもなく、建築における価値観や制度は国ごとに大きく異なり、単なる言語の翻訳では通じない思想の隔たりが存在する。その中で私たちが真に向き合うべきは、「相互理解」という姿勢そのものであった。

設計図や仕様書だけでは伝えきれない背景や意図を、どのように言葉にし、どのように共有していくか。相手の文化や視点に敬意を払いながら、共通の目的に向かって歩み寄る。このプロジェクトは、まさにそうした精神の実践であり、建築を超えて心をつなぐ営みであった。

これらを形にできたのは、現地日本をはじめ、関われた様々な国の方々の努力の他になく、深き敬意と感謝を捧ぐ。

(RIMOND Japan: Eric Lefebvre/安井建築設計事務所マネジメントビジネス部: 三木裕之)

【建築主】

COFREX (在日フランス協会)

【設計施工契約者】

RIMOND

【建築概要】

敷地面積: 3,513.42㎡

建築面積: 2,153.31㎡

延べ面積: 3,939.30㎡

構造種別: 鉄骨造

階数: 地上4階建

【デザイン設計】

コンセプト・デザイン: Coldefy

+ Carlo Ratti Associates

【設計・監理】

基本・実施設計: 安井建築設計事務所

設備実施設計: 環境空間設備

工事監理: 安井建築設計事務所+アトリエCK

【施工】

総合: RIMOND Japan

建築: 三田工務店

ビルドテック

電気: 鈴鹿

機械: 弘光舎

【鉄骨工事施工】

躯体: 三宅鐵工建設

屋根: 三晃金属工業

大階段: 横森製作所

下地・金具: 塩浜工業

【ランドスケープ】

設計: Coloco

施工: 古屋植木

そら植物園

【展示工事】

設計: GSM Project

OMA

施工: つむら工藝

照明・音響: Loctambule



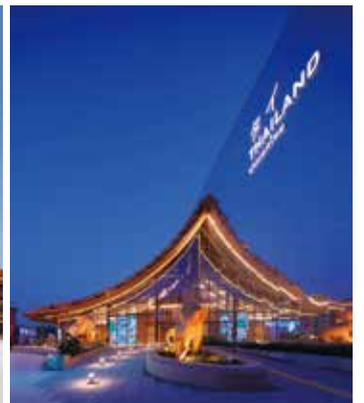
(写真: RIMOND: William Mulvihill/Farissa de Leon)

Thailand Pavilion World Expo 2025

ウィマーン・タイ ~VIMANA THAI~



「ウィマーン・タイ」(VIMANA THAI)と名付けられたタイパビリオンは、「SMILE」のコンセプトで、現地の知恵とイノベーションを融合したアイデンティティを表している。「免疫力」をテーマとするこのパビリオンは、伝統行事や食文化、自然資源や生活様式を起源とする医療や公衆衛生、健康文化に焦点を当てて構成されている。免疫力を高めるアロマの香りを楽しんだり、ハーブドリンクやタイ料理が販売され、館内でタイマッサージを体験することもできる。パビリオンの屋根やミラーパネル、床材など外装材の多くはタイから調達しており、そのため避難安全検証によりカーテンウォールの排煙窓の免除などを行なった。短期間の利用であることから構造的には解体工事を含むコスト削減、工期短縮のため、鉄骨基礎及び地中梁を採用している。伝統的な屋根の曲線にこだわった、半面が鏡に映る虚像の大屋根構成は、過去・現在・未来、の包容力のあるタイ社会を象徴的に表現している。入口正面には繁栄と長寿のシンボルである象のオブジェが置かれ、来館者を優しく迎え入れてくれる。



(写真：松村芳治)

【建築概要】

敷地面積：3,532.59㎡
 建築面積：1,385.27㎡
 延べ面積：1,674.17㎡
 構造種別：鉄骨造
 階数：地上2階建

【所轄】

Ministry of Public Health [MOPH]

【各種申請】

確認申請：日本ERI(株)
 構造計算適合性判定：(一社)ベターリビング

総合監修：Joint Venture RMA110
 コンセプト・デザイン：Architects 49 [A49], Rightman

【設計】

コーディネーター：(株)アーキテックパートナーズ 一級建築士事務所
 設計監理：(株)徳岡設計
 設計協力：(株)現代建築研究所
 防災設計：(株)VoLi Architect Studio, (株)九門
 構造設計：齋藤公男(日本大学名誉教授), 基本設計：(株)コウゾウケイカクロナナン
 実施設計：(株)名構設計

設備設計：(株)明野設備研究所

【施工】

総合：タフズ・ヤマモト・Acala 建設共同企業体
 展示工事：(株)日本電装

Pavilion of State of Kuwait at Expo 2025 Osaka

先見の明かり ～Visionaly Lighthouse～



(写真：SUAKX 和久浩之)

「先見の明かり～Visionaly Lighthouse」をテーマに、湾岸地域を照らすアラブ文化・芸術の灯台、寛容さの導き手として発信するクウェート国の伝統と自然をシームレスに織り込んだパビリオン。翼のように広がる正面デザインは、誰にでも開かれた社会と来訪者への歓迎を象徴する。優雅な曲線美は砂紋や波、風にそよぐ民族衣装のようでもある。

伝統とハイテクの融合する洗練された4つの展示空間は、来訪者の五感に訴えながら過去、現在、未来を巡る湾岸の旅へと誘う。柔らかな布やアルミによって表現された空間からは、美しい砂に包容され、厳しい光や熱から多様な生命が守られていることにも気付かされる。躍動する経済と壮大な都市開発などの紹介や、伝統的イスラム建築を彷彿とさせる中庭を巡り、楕円ドームの天空スクリーンに包まれると、夜空の星の下で休養するかのようになり、イメージーションや願い事の実現する、希望に満ちた未来社会を展望し共創することができる。壇上のレストランではクウェートの旅を追憶しながら、静かにクウェート料理を味わえる。また夜間のライトアップは「先見の明かり」をさらに美しく、ロマンティックに演出している。

【建築概要】

敷地面積：3,503.01㎡
建築面積：2,220.76㎡
延べ面積：3,547.94㎡
構造種別：鉄骨造一部膜構造
階数：地上3階建

【建築主】

Commissioner General State of Kuwait Expo 2025 Osaka

【申請】

ビューローベリタスジャパン (株)



(写真：吉田正友)

総合監修：NÜSSLI (Switzerland) Ltd

【コンセプト・デザイン】

建築：LABORATORY FOR VISIONARY ARCHITECTURE [LAVA]

構造：schlaich bergemann partner [sbp]

設備：Ingenieurbüro Herzner und Schröder

展示：insglück

【設計】

設計監理：(株)徳岡設計

設計協力：(株)現代建築研究所, SYA / Satoru Yahagi Architects

防災設計：(株)VoLi Architect Studio, (株)九門

B I M：(有)SUAKX

IU BIM STUDIO (株)

(同)ルフト一級建築士事務所

構造設計：斎藤公男(日本大学名誉教授), (株)コウゾウケイカクロナンナン

電気設備設計：(株)フューチャーアットマークテクノ

機械設備設計：(株)トーホー設備設計

ランドスケープ設計：(株)景観設計・東京

【施工】

総 合：(株)麦島建設 空調・電気：東芝プラントシステム (株)

膜 構 造：山口産業 (株) 展示照明：BeWunder

金属加工・施工：(株)ヒラミヤ

展示工事：ShowTex

動静レポート

会長動静

- 6/27 京都大学・小見山講師面談
近畿建築確認検査協会総会
- 6/30 JICA とのミャンマー技術支援協議
- 7/2 JICA セルフディフェンス研修
- 7/3 大阪府収用委員会協議
- 7/5 近畿築士会協議会まちづくり部会
地域リーダー会議
- 7/6 ミャンマーでの被災建築物調査、
技術者団体会議、耐震セミナー開催、
建設業団体連合会会長面談、日本
大使館報告会 (7/6 ~ 7/12)
- 7/16 理事会
- 7/17 大阪府都市整備部住宅建築局長面談
- 7/18 大阪府収用委員会協議
- 7/22 大阪市計画調整局長面談
- 7/25 事務局職員面談
在阪建築 4 団体会長・支部長会議

会長・役員による大阪府及び市町村訪問

本会では、2013 年（平成 25 年）の公益社団法人への移行以来、毎年恒例（2020 年度はコロナ禍で中止）で府内 43 市町村の首長様との面談を行い、行政庁の各種委員会等に会員建築士の派遣協力をはじめ、防災・建築相談・まちづくり・住環境等の活動実績をお伝えし、建築行政の支援に係る懇談を重ねております。

本年度も本会の地域貢献活動の紹介とともに地元の建築やまちづくり等に関して意見交換し、行政庁との連携をより一層推進してまいります。

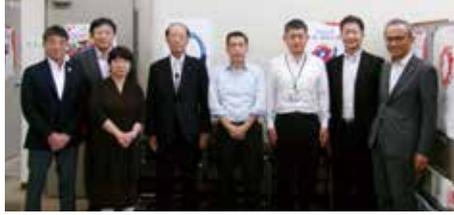
市町村訪問に先駆けて、大阪府・大阪市の建築行政の担当局長にお伺いしました。

◎ 7/17 大阪府・財部祐介住宅建築局長と面談



牧田専務理事、石貫副会長、岡本会長、財部局長、中岡理事、小泉建築指導室長、上田副会長、横田副会長

◎ 7/22 大阪市・山田裕文計画調整局長と面談



牧田専務理事、徳岡副会長、石貫副会長、岡本会長、山田局長、鎌田建築指導部長、上田副会長、横田副会長

7 月度 理事会報告

日時 7 月 16 日（水） 16:00 ~ 18:00

場所 本会東会議室

出席 理事 40/46 名 監事 2/2 名

【審議・承認事項】

(1) 会計報告、入退会

(円)	6 月計	累計
収入	5,212,911	72,125,124
支出	11,446,745	34,072,210
差引	-6,233,834	38,052,914

(人)	6 月	入会	退会
正 会 員	2,111	2	1
準 会 員	28	0	0
特 準 会 員	22	0	0
賛 助 会 員	151	1	0
計	2,312	3	1

上記の当期経常増減明細と入退会を承認しました。

(2) 定款等の変更のための臨時総会

5 月 28 日の定時総会において、委任状を含む出席者数が定数に満たず審議できなかった第 3 号議案（公益認定法の改正に伴う定款変更）、および第 4 号議案の外部監事の選任について、11 月 19 日の理事会前に対面による臨時総会を開催し審議を行うことを承認しました。

(3) 大阪建築コンクールの募集拡大

大阪府以外の建築士会会員が大阪府内に建てた建物についても応募が可能となるよう、募集要項の改訂を承認しました。

(4) 総合資格学院の提携割引サービス

本会会員および準会員が総合資格学院の講

習会を申し込む際の受講料割引に係る覚書の締結を承認しました。

【報告事項等】

(5) おおさか大会の進捗状況

・7 月 14 日時点での申込状況は大会登録 2,899 名、式典 2,476 名、記念講演会 1,996 名、大交流会 969 名となり、万博、エクスカッション、大交流会を除き 7 月 31 日まで再募集を継続することとしました。

・大会登録の受付を担当する JTB との業務委託契約について、大会登録ならびに大交流会の登録者数に基づき締結することとしました。

・大会会場となるグランキューブ内で国際シンポジウムを開催することとし、釜山、上海、新北、ホーチミン、香港、モンゴル、インドネシア、フィリピンの 8 地域に案内状を送付予定であることを報告しました。

(6) 定款第 21 条 4 項に基づく事業執行の報告を行いました。

横田友行副会長が国土交通大臣表彰を受賞

本会副会長の横田友行氏が 7 月 10 日に建設事業関係功労による国土交通大臣表彰を受賞されました。氏は一級建築士資格の取得後 40 年間に亘り、災害に対してより一層安全な建築物を提供することを使命として、日々建築構造設計業務に携わってこられました。氏は 2003 年に本会に入会后、研修分科会の構造専門部会に属し、2013 年より研修委員長として、教育分科会、研修分科会、制度推進分科会を担当されました。

また、2020 年に建築物耐震評価委員会副委員長、2023 年に本会副会長に就任され、青年女性委員会、国際委員会、賛助会員委員会、シニアサロン等の諸活動を牽引されています。また、近年は日本建築士会連合会の教育・事業本委員会委員として、継続教育や建築作品賞、WEB システムの検討を通じて、全国の建築士会の新規会員の獲得に努めておられます。

香港理工大学大阪視察団との交流、日本の建築と防災

日程：令和7年6月3日(火)

2025年6月3日、建築士会の一員として、香港理工大学の教授陣・学生の皆様を大阪に迎え、日本の建築と防災を共に視察する機会に恵まれました。国際的な知見の共有を目的としたこの催しは、私自身にとっても日本建築の素晴らしさを再認識する貴重な一日となりました。

まず、竹中工務店様のご協力で「箕面船場駅前開発計画」の工事現場を見学しました。特に印象的だったのは地下の免震層で、日本が培ってきた緻密な防災技術に深く感銘を受けました。また、朝礼場での安全意識やチームワークにも、日本の現場文化の質の高さを感じました。香港の学生たちの熱心な質問からも、日本技術への関心の高さが伝わってきました。

次に訪れた大阪大学箕面キャンパス外国語研究棟では、日建設計・清水建設の方々より設計や施工の工夫について説明を受けま

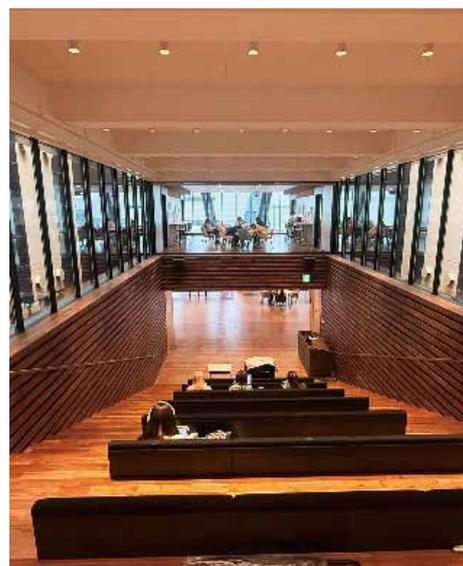
した。「織り」をモチーフにした外観や、開放的なピロティなど、地域文化や環境への配慮が随所に感じられました。LEEDゴールド認証の取得にも、サステナビリティへの真摯な姿勢が表れていました。

午後は建築士会館で講演会「地震災害に備える日本の防災対策」に参加。吉村先生の講演では、過去の震災の教訓を踏まえた防災の進化が語られ、特に地域の連携や日常の中での備えの重要性が強調されました。香港も地震リスクを抱える地域であり、参加者の真剣な姿が印象に残りました。

締めくくりに懇親会では、文化や建築について語り合い、互いの熱意と希望を分かち合いました。今回の交流を通じ、日本の建築技術と防災意識を再認識するとともに、自らの仕事を国際的視点から見つめ直す貴重な経験となりました。今後もより良い社会と建築を目指し、精進してまいります。



田中眞樹(国際委員会 委員)



建築相談室から(98) 遠方からの相談

意外と統計に表れにくいのが、「どの地域からの相談か」「どこの物件に関する相談か」といった情報です。相談記録には、氏名・住所・性別・年代・電話番号などの記入欄がありますが、現地相談や面談相談を除き、すべての項目を必ずしも聞き取って記録しているわけではありません。

相談の多くは近畿圏内からですが、ときおり遠方からの相談も寄せられます。2024年度には、遠方からの相談が6件ありました。今回はその一部をご紹介します。

1.「遠方で物件」に関する相談

東京都23区からの相談(ブロック塀)

隣地境界上にある高さ3m・幅4mのブロック塀を、高さ1.2mに下げたいという相談でした。ただし、塀が越境していることが判明しており、どう対応すべきかとのこと。技術的な助言に加え、「越境は望ましくないため、撤去も含めて隣地と協議してください」と回答しています。

静岡県からの相談(進入橋の工事費)

実家で進入橋を建設し、すでに支払いも済ませたが、請求額が高すぎると感じている。役所に相談しても相場がわからないと言われ、家庭裁判所に相談したところ当相談室を紹介されたとのこと。対応した相談員は、静岡県建築士会の相談窓口を案内しています。

2.「近畿圏内物件」に関する相談

千葉県からの相談(芦屋のリフォーム)

15年前に転勤で千葉に移住。半年後に芦屋へ戻る予定だが、現在は化学物質過敏症で通院中。戻る前に簡単なリフォームを予定しているが、化学物質が残っていないか、また業者にシックハウス対策の知識があるか心配とのこと。「どうしても不安であれば入居前に室内の化学物質濃度を測定してもらっては」と提案しています。

つくば市からの相談(大阪市の賃貸物件)

大阪市北区に所有する築37年のRC造3階建

橋本頼幸(建築相談委員会幹事)

て賃貸物件を売却予定。不動産業者から「違法建築のため相場の半額になる」と言われたとのこと。投資型不動産取引では利回りなども考慮されるため「違法建築だからといって必ずしも大幅に値下がりするとは限らない。複数の不動産業者に相談してみれば」と回答しています。

東京都23区からの相談(奈良の改装)

奈良県明日香村の中古戸建てをリノベーションするため、寝屋川市の業者と図面作成込みで契約。しかし図面は提供されず、工事が始まってしまった。半年間はリモートで打合せをしていたが、連絡が途絶え、1ヶ月前に現地を訪れたところ聞いていない工事が進んでいた。やり直しを指示した翌日業者は現場を引き上げた。すでに1,400万円を支払っているとのことでした。

3.大阪府以外の相談にも対応しています

相談室には、近畿圏内に限らず、全国各地からさまざまな相談が寄せられています。

建築士会からのお知らせ

【本会正会員の皆様へ】 重要なお知らせ

令和7年度の臨時総会を11月19日に開催いたします。定款変更の議案があるため、総正会員の1/2以上のご出席(委任を含む)が必要となりますので、今月号に同封しております出欠票(委任状付)か下記QRコードより、必ずご返信をお願いいたします。

日時 11/19(水) 14:30~15:30

会場 大阪府建築士会東会議室

議案

- ・公益認定法改正に伴う定款等の変更
- ・令和7年度役員(外部監事)承認の件

出欠



既存木造住宅の耐震診断・改修講習会 (限界耐力計算法)

8/20 CPD4単位

既存木造建築物の限界耐力計算法による耐震診断は、一般診断法が建物の強度を評価するのに対して、建物の強度だけでなく、減衰性能も評価することができる診断法です。なお、講習会の修了者名簿は大阪府及び府内全市町村・関係団体等に常備し、耐震診断を希望する建物所有者等からの問合せに活用します。

日時 8/20(水) 10:00~15:00

会場 大阪府建築士会 東会議室

定員 30名(定員に達し次第締切)

受講料 会員6,000円、一般8,000円

テキスト代 4,000円

「大阪府 木造住宅の限界耐力計算による耐震診断・耐震改修に関する簡易計算マニュアル」(2023年10月改訂版)

令和7年度 建築士定期講習

8/27、9/17、10/17、11/20、12/12、1/21、2/13、3/26

建築士法の規定により、建築士事務所に所属するすべての建築士は3年以内ごとに定期講習を受講しなければなりません。本年度は令和4年度に本講習を受講された方や、建築士試験に合格された方が対象となります。未受講者は懲戒処分の対象となりますので必ず年度内に受講してください。

▼日程・会場・定員

※8/27(水) 大阪府建築健保会館 80名

9/17(水) 大阪府建築健保会館 70名

※10/17(金) 大阪府建築健保会館 80名

11/20(木) 大阪府建築健保会館 70名

※12/12(金) 大阪府建築健保会館 80名

1/21(水) 大阪府建築健保会館 70名

※2/13(金) 大阪府建築健保会館 80名

3/26(木) 大阪府建築健保会館 70名

上記すべてDVD講習です。

※の日程：大阪府建築士会が運営

※以外の日程：大阪府建築士事務所協会が運営
注) 各回定員に達し次第、受付を終了します。

時間 9:15~17:00(各講習日共)

受講料 12,980円(消費税含。事前入金)

申込 建築技術教育普及センターHPより

日時 9/25(木)、11/7(金)、2/25(水)

13:30~17:00

会場 大阪府建築士会 東会議室

定員 30名(定員に達し次第締切)

受講料 WEB申込17,000円

郵送申込17,600円

▼申込 日本建築士会連合会ホームページよりお申込みください。上記以外にオンライン講習も開催いたします。

<https://www.kenchikushikai.or.jp/koshukai/kizonjyutakujiyokyochosa.html>

令和7年度監理技術者講習

9/26 CPD6単位

本講習会は建設業法に基づく法定講習であり、建築に特化したテキストを使用し、経験豊富なベテラン技術者の講師による解説と映像で、実務に役立つ情報を提供いたします。

日時 9/26(金) 8:55~17:00

会場 大阪府建築士会 東会議室

定員 30名(定員に達し次第締切)

受講料 WEB申込み9,500円

郵送申込み10,000円

申込 日本建築士会連合会HPより

<http://www.kenchikushikai.or.jp/torikumi/news/2015-07-28-2.html>

既存木造住宅の耐震診断・改修講習会 (一般診断法)

10/29、12/2 CPD各5単位

本講習会は、大阪府及び府内市町村の木造住宅耐震診断・改修の補助を受けることができる技術者の養成を目的としています(国土交通大臣登録講習ではありません)。講習会の修了者名簿は大阪府及び府内全市町村・関係団体等に常備し、耐震診断を希望する建物所有者等からの問合せに活用します。

日時 10/29(水)、12/2(火) 10:00~15:50

会場 大阪府建築士会 東会議室

定員 30名(定員に達し次第締切)

受講料 会員5,000円、一般9,000円

テキスト代 7,300円

「2012年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法」

既存住宅状況調査技術者講習

新規講習10/22

更新講習9/25、11/7、2/25

CPD新規5単位、更新2単位

既存住宅状況調査は、登録機関の講習を修了した建築士のみ認められる業務です。ぜひ本講習で新たな業務の資格を取得してください。令和4年度に本講習を修了された方は本年度が有効期限となりますので、更新講習をご受講ください。

▼新規講習(DVD)

日時 10/22(水) 9:30~17:00

会場 大阪府建築士会 東会議室

定員 30名(定員に達し次第締切)

受講料 WEB申込21,450円

郵送申込22,000円

▼更新講習(DVD)



Informationの詳細及び申込みは大阪府建築士会ホームページに掲載しています。
<http://www.aba-osakafu.or.jp/> メール info@aba-osakafu.or.jp
 TEL.06-6947-1961 FAX.06-6943-7103

デジタルツイン×メタバース×AIで切り開く地方創生手法の今

—石見銀山デジタルツインバースPJ—

8/25 CPD2単位(予定)

本講演会では、大成建設で“建築・まちづくりの先端領域に挑戦する”先端デザイン室の設計者に、これまでに類を見ないまちづくりの取り組みについて紹介していただける貴重な機会ですので奮ってご参加ください。

日時 8/25(月)

14:20~16:00(集合受付14:00)

受講料 建築士会会員2,500円

後援団体会員3,500円

一般4,500円

会場 大阪府建築健康会館

定員 90名

木材講習会

今さら聞けない木の話

10/8 CPD3単位(予定)

2025年建築基準法改正はカーボンニュートラルの実現のため、木材利用を促進され、建築士には木材の知識が求められています。そこで木材に関する基礎から再度学習していただける講座を行います。

針葉樹・広葉樹の違い、乾燥、弱点、呼び方等実際にカットサンプルも触っていただきたいと思います。

講習・見学 10/8(水)

13:30~16:00(集合13:15)

会場 大阪木材仲買会館

大阪市西区南堀江 4-18-10

内容 一部 木材の基礎知識講習

二部 仲買会館建築物見学

講師 株式会社岡本銘木店

代表取締役会長 佐藤原二氏

定員 40名(申込先着順)

参加費 会員1,500円、一般3,000円

その他のお知らせ

設立50周年記念事業

人・まち・建築アイデアコンペ

一般社団法人大阪府建築士事務所協会は、2026年に設立50周年を迎えます。この記念すべき節目を迎えるにあたり、次の50年に向けた持続可能な社会の実現への取り組みの一環として、「設立50周年記念事業 人・まち・建築アイデアコンペ」を実施します。

コンペスケジュール

開催概要発表: 7/1(火)

質疑期間: 7/1(火)~7/31(木)

質疑回答: 8/8(金)

登録期間: 7/1(火)~9/15(月)

提案受付: 8/18(月)~9/30(火)

詳細・申込 一般社団法人大阪府建築士事務所協会HPより

2025年度 GBRC 建築技術セミナー

8/22、10/17

今年度は「GBRC EXPO2025」をテーマとし、一人一人がつながり、未来社会の可能性を広げるきっかけとなるようなセミナーを開催します。

■大阪会場

日時 8/22(金) 12:00~17:00

会場 マイドームおおさか

定員 250名

■東京会場

日時 10/17(金) 13:00~17:00

会場 一橋大学 一橋講堂

定員 200名

詳細・申込 一般財団法人日本建築総合試験所HPより

第39回 木質の利用シンポジウム

9/17

本シンポジウムでは、万博のシンボル「大屋根(リング)」をキーワードに、資源が美しく環を描くような、新しいモノづくりの姿を考えます。木や竹、食品廃棄物といった多様な素材の循

環から、環境配慮設計の最前線に迫ります。

日時 9/17(水) 13:00~17:00

会場 ■オンサイト

京都府立大学 稲盛記念会館

1階104講義室

■オンライン

Zoomウェビナー

定員 ■オンサイト 100名

■オンライン 250名

詳細・申込 公益社団法人日本木材加工技術協会関西支部HPより

坂村健特別講演会

10/26

IoTの第一人者でもある坂村健氏をお迎えし、「トロン電脳住宅」と題して、講演会を開催いたします。

日時 10/26(日)

14:00~15:30(開場13:30)

会場 大阪国際会議場(グランキューブ大阪)

10階

演題 トロン電脳住宅

参加費 無料

詳細・申込 一般社団法人大阪府建築士事務所協会HPより

「建築人」Gallery掲載作品の募集

本誌「建築人」は毎月約3,000部を発行し、本会会員をはじめ官公庁、大学、図書館、出版社、報道機関等に頒布しています。Gallery掲載作品は「建築人賞」の候補となります。

●掲載記事 1頁カラー、写真4点程度

●掲載費用 100,000円

※1 初回割引80,000円(設計者および施工者が過去10年間、Galleryに掲載されていない場合)

※2 若手初回割引50,000円(40歳以下かつ建築設計事務所を主宰され※1を満たす方)

●詳細・申込 事務局担当: 母倉

e-mail: info@aba-osakafu.or.jp

TEL: 06-6947-1961

スポーツ讃える透明感ある空間の光明

酒田市営国体記念体育館 一九九一年

文・写真 松隈 洋〔神奈川大学建築学部長教授〕

こんなに美しい体育館を見たことがなかった。一人ため息をつきながら、目の前で繰り広げられている地元の中学生たちの卓球競技大会を包み込んでいる空間の美しさに、時間を忘れてただただ見惚れるばかりだった。何よりも素晴らしいと思ったのは、競技をしている生徒たちも、それを見守る観客席の人たちも、自分たちの居る空間をほとんど意識することなく、その場に流れる心地良い清新な透明感に、どっぷりと浸っている

ように感じられたことだ。そこには、従来の体育館のような、武骨な鉄骨部材による屋根の架構は存在しない。大らかな円弧を描く白色の天井面と、構造体とは思えないような、水色に塗られたスチールパイプの片持ちトラスと、その上に架け渡されたレンズ型の長弦梁の下弦に張られた構造用ケーブルが、軽やかなアクセントを与えているだけなのである。しかも、レンズ型の長弦梁の両端に張り出した軒先部分の裏面を透明ガラス



西側アプローチから見た屋根の重なり



大アリーナ内部の光景

とすることによって、観客席上部の天井面は間接の自然光に照らされて、アリーナ全体が神聖な雰囲気にも包み込まれている。また、そのような軽快な白い天蓋とは対比的に、カバ桜のフロアリングの床とホワイトオーク練付合板の壁、成型合板の観客席椅子の質感が、競技者と観客の身体を温かく受け止めている。空間を構成する要素が周到に絞り込まれ、単純化されたことによつて、そこで行われるスポーツの営みを讃えつつ、控えめな背景となることをごくまでも追求されているのである。その徹底ぶりの中に、谷口の建築思想と方法の真髓が読み取れる。

この体育館の建っているのは、山形県酒田市の飯森山文化公園内で、前回紹介した同じく谷口吉生が設計を手がけ、一九八三年に竣工した土門拳記念館の北側の隣地である。もちろん、ふたつの建物の間には、緩衝地帯となるグラウンドと、記念館に合わせて造られた「白鳥池」という名称の人工池が配置されている。しかし、一人静かに芸術と向き合う記念館とはあまりにも性格が異なり、多人数の使用する動的なスポーツ施設の建設計画に、さぞかし戸惑ったに違いない。求められた所要室は、競技用の大アリーナ（観客席収容人数・約千人）と練習用の小アリーナ（同・二百人）、弓道場、研修室、図書室、視聴覚室であり、延床面積は記念館の五倍の大きさにもなる。竣工後、このような難しい与条件の下で組み立てた基本方針について、谷口は、次のように書き留めている。

スポーツ施設にふさわしい軽快な意匠とすること、そして当然のことながら、近接する記念館とはまったく異なる機能であるため、その建築表現もあえてまったく異なる対比的なものとするのであった。〔『新建築』一九九一年十一月号〕

こうして、同じ文章に谷口が記すように、「周辺の自然と密着して、敷地に強く根付いて建っている」記念館とは対比的に、「あたかも突然空から舞い降りた銀色の飛行体が、ひととき羽を休め、ふたたび浮上するかのような敷地と遊離したたはずまい」を持つ体育館が目指されたのである。そのために、造形上で最も重要視しようとしたのが、大きな室容積を占める大小のアリーナを覆う屋根架構の構造形式であり、構造設計者の齋藤公男との協働で導き出されたのが、先に触れた片持ちトラスとレンズ型の長弦梁による繊細な構造体なのである。また、そのことは、内部にとどまらず、建物の外観デザインを特徴づけるものともなっている。現地を訪れると、外観も、従来の体育館にありがちな即物的な直方体の巨大な箱ではない。「銀色の飛行体」と谷口が呼んだとおり、二階の観客席へと上る外階段とテラスを構成するコンクリート打放しの基壇の上に、リブ状の縦縞模様のアルミニウムメッキ鋼板に覆われた銀色に輝くシャープな外壁と長尺のステンレス鋼板に覆われたレンズ型の「飛行体」の翼のような屋根が載る、見たことのない不思議な外観の大小のアリーナが見えてくる。また、大振りになりがちな妻側の印象を軽減させることを求めたのだろうか。西側ア

プローチの小アリーナの手前には、ピロティ状の柱列の上に載る半円形の外壁に囲まれた屋外劇場が置かれ、奥の東側には、弓道場と屋上テラスが設けられている。さらに、レンズ型の長弦梁の軒先から垂直に張られた水色のテション（引張）材の鋼棒の連続が、緊張感のある独特のリズムと精緻なディテールによる細部の妙味を、外観に与えているのである。

このような方法によつて、南側のグラウンド側から見ると、内部と同じく、構成要素を徹底して絞り込むことによって寡黙なたたずまいを実現させながら、対面にある土門拳記念館とはまったく異質な、まただからこそ確かな存在感を持つて調和する造形が生み出されたことがわかる。今回、この体育館を訪れてみて、美術館や博物館を数多く手がけた谷口の建築思想をどこか狭く捉え過ぎていたことにも気づかされた。そこに変わらぬに流れているのは、人々の日常的な営みに対する敬意に基づいた慈しみの眼差しである。そう考えるとき、勝手な夢想ながら、谷口に、集合住宅や学校、図書館や病院、庁舎や駅舎など、日常生活を支えるより身近な建築を、たくさん手がけてほしかったと思わずにはいられなかった。この酒田市営国体記念体育館には、谷口吉生が単独で切り拓いた普遍性を持つ方法が高い純度で結実している。竣工から三十四年、周到なメンテナンスを施され、清新さを放つその空間は、飯森山文化公園全体の修景を図り、回遊性を重視した環境造形を含め、隣り合う土門拳記念館と共に、これからの市民の拠りどころとして生き続けるに違いない。

SUTTO
sanei



水をつなぐ
SANEI 株式会社





公園や並木道と一体化したステップガーデン



植栽照明と室内から漏れる光が地域をやさしく照らす